

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 698 号	氏名	石坂 哲
学位審査委員		主査	吉田 教明
		副査	梅田 正博
		副査	真鍋 義孝
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、プロポフォール麻酔下における健常者の上気道の閉塞を、遠隔制御エアバッグ装置による頭蓋部の上昇と顎閉鎖によって改善できることを検討したもので、研究目的として妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>各被験者に対し遠隔制御エアバッグ装置を装着し、プロポフォール麻酔下に睡眠時無呼吸症候群の検査に用いるポリソムノグラフィーを記録。上気道の筋緊張虚脱により呼吸流量が0になる時の鼻咽頭圧（閉塞圧）と上気道抵抗値（Rus）を測定し、それを三つの異なる頭蓋と顎の位置（通常の仰臥位/6cm頭部挙上/6cm頭部挙上かつオトガイ挙上により閉口）について評価している。さらに、適切な統計学解析も行われており、研究手法は妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>遠隔制御エアバッグシステムを使用して保持した6cm頭部挙上かつ閉口状態の組み合わせは、通常の仰臥位と比較して、上気道閉塞の減少に有意差を認めた。また臨床試験においては、無呼吸症候群の患者における上気道閉塞を改善した。これらによって遠隔制御エアバッグ装置の作動が、無呼吸および呼吸低下の持続時間の減少と最低動脈血中酸素飽和度の上昇に関連することが示唆された。これらの研究結果と考察内容は高く評価でき、今後の臨床応用への研究の展開が期待できる。</p> <p>以上のように本論文は、睡眠時無呼吸症候群の症状緩和に関する研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(歯学)の学位に値するものと判断した。</p>			